

日本にはたくさんの雨を表す言葉があります。雨は、西日本に大きな災害をもたらしましたが、様々な呼び名は、季節による雨の違いを感じ取る日本人の細やかな感性を表しているとも言えます。夏の雨には、夕立、神立といった言葉もありますので、調べてみるのもいいですね。

<朝会で話した主な内容> テーマ：「梅雨にちなんで」

6月から7月ごろにかけて降り続く長雨のことを、梅雨（つゆ）や（ばいう）と言います。なぜ、梅という漢字を使うのでしょうか。

日本では、6月は昔の暦でいう5月にあたるため、「五月雨（さみだれ）」と呼んでいたそうです。「梅雨」という漢字は、中国から来た言葉で、黄梅の実がなる時期に降る長雨だからという説が有力です。他にも、カビが生えやすい時期なので、カビという意味の「ばい」と「雨」で「ばいう」と読んでいたが、印象をよくするため、「梅」の字を使うようになったとも言われています。

江戸時代の徳川綱吉将軍の頃には、つゆという呼び名が定着していたようです。雨が降ると水滴が沢山つくことから、露がつく季節ということで、つゆという読み方になったというのが有力です。雨が続くと、外で遊べなくてすっきりしませんが、雨にまつわる話を集めてみるのもいいですね。

「虹」という漢字は、虫へんがついていますが、これは想像上の動物、竜を表すと言われています。竜は、水中に住んでいますが、時が来れば雷雲を呼んで空に昇ると言われます。雷が鳴る激しいにわか雨の後、空にかかった大きな虹を竜の姿に見立てたことから、虫へんがついたのだそうです。名前には、面白い由来があるのですね。

<感想>

- 1 心に残ったところは、虹という漢字の虫へんの意味のところでした。理由は、竜のことだと知らなかったし、なるほどなと思ったからです。他の漢字の意味も調べてみたいと思いました。
- 2 梅雨の漢字は中国の漢字で、昔は「ばいう」と呼んでいたそうです。「ばいう」は、カビという意味があることを知らなかったのが、知って嬉しかったです。
- 3 心に残ったことは、漢字の意味を知るところです。理由は、梅雨という言葉は、中国から来た言葉だからです。これからは、漢字の意味を知ろうと思います。
- 4 一番心に残ったところは、虹の「虫」は竜という意味だということです。理由は、初めて知ったからです。これから僕は、言葉について少しでも調べてみたいです。
- 5 心に残ったことは、漢字にはいろいろな意味があるということです。「梅雨」とは、こうやって読むなんて知りませんでした。もうちょっと調べていきたいと思いました。
- 6 よく考えてみると、どうして僕の名前の漢字は、こんな漢字なんだろうと思いました。これから漢字辞典で僕の名前の漢字の意味を調べたいです。
- 7 心に残ったことは、梅雨という言葉は中国から来ていることです。理由は、日本でその言葉を作ったと思っていたからです。これから、いろいろな言葉を探していきたいです。
- 8 心に残ったことは、漢字にもいろいろな意味があるということです。なぜかという、「梅雨」という字の「梅」の字が中国から来たというのを初めて知ったからです。もっと漢字の意味を知りたいです。
- 9 「梅雨」の言葉は、最初は「ばいう」だったのを初めて知りました。校長先生の話はいろんなことを知ることができるので、みんなが知らないお話をいっぱい続けてください。